

「小石川植物園の台風被害(5)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

台風19号による、小石川植物園の樹木の被害は、若くて細い木よりも、太い老木に多かったようだ。人間にも老いや寿命があるように、植物にも老いや寿命があるのだろう。



これは森の奥にある「ムクロジ」の木だが、一番太い枝が折れていた。完全に折れて地面に落ちていれば良いのだが、中吊りで危険な状態になっていた。入園者の安全の為に、かなり広い範囲がロープが張られて立入禁止になっていた。



このムクロジの木も、根元から数メートル、中心部が白腐れの状態になり、ほとんど空洞(うろ)になっている。山の中では、こうした空洞に動物や鳥類が営巣することがあり、生態系の中では重要な役割を果たしている。しかしこうなると、地面から吸い上げられる水分や養分は制限され、木の勢い(生命力)はどうしても弱まるのだろう。



ムクロジは果実と種子に特徴がある。台風の強風と枝が折れたことが重なって、たくさんの果実や種子が木の下に散乱していた。



ムクロジの果実は若いうちは黄緑色で硬い。熟してくると、半透明(蠟状)になり、液質に変化する。この果皮には「サボニン」を含み、表面活性作用があるので、過去には石鹸の代用として使われた。



果実の中には大きな種子が1個入っている。ツバキやチャノキの種子と同じように、堅牢である。これは羽根付きの芯材や、数珠の材料に使われる。台風の影響で樹木には被害が多かったが、おかげでいろいろな植物を詳しく観察することができた。